

研究開発専門部会 分離変換技術検討会の設置について（案）

平成20年8月21日  
原子力委員会  
研究開発専門部会

1. 目的

我が国における分離変換技術に関する研究開発の現状について整理するとともに、本技術の効果及び意義を分析し、それらを踏まえた今後の研究開発の進め方等について検討するため、研究開発専門部会の下に分離変換技術検討会（以下、「検討会」という。）を設置し、必要な調査審議を実施する。

2. 検討項目

検討会において、以下の項目について検討することとする。

- (1) 分離変換技術の研究開発の現状についての調査
- (2) 分離変換技術の今後の研究開発についての検討
- (3) その他

3. 検討会の構成

別紙のとおりとする。

4. 検討の進め方

検討会における議事は、原則として公開とする。ただし、検討会が議事を公開しないことが適当であると判断したときは、この限りでない。

5. その他

- (1) 検討会の座長は、必要があると認めるときは、部会長と協議の上、調査審議の結果について、原子力委員会に直接報告することができるものとする。
- (2) その他検討会の運営に必要な事項については、検討会で定める。

(別紙)

## 分離変換技術検討会 構成員

### ○専門委員

	氏 名	現 職
座長	山名 元	京都大学原子炉実験所 教授
	山中 伸介	大阪大学大学院工学研究科 教授

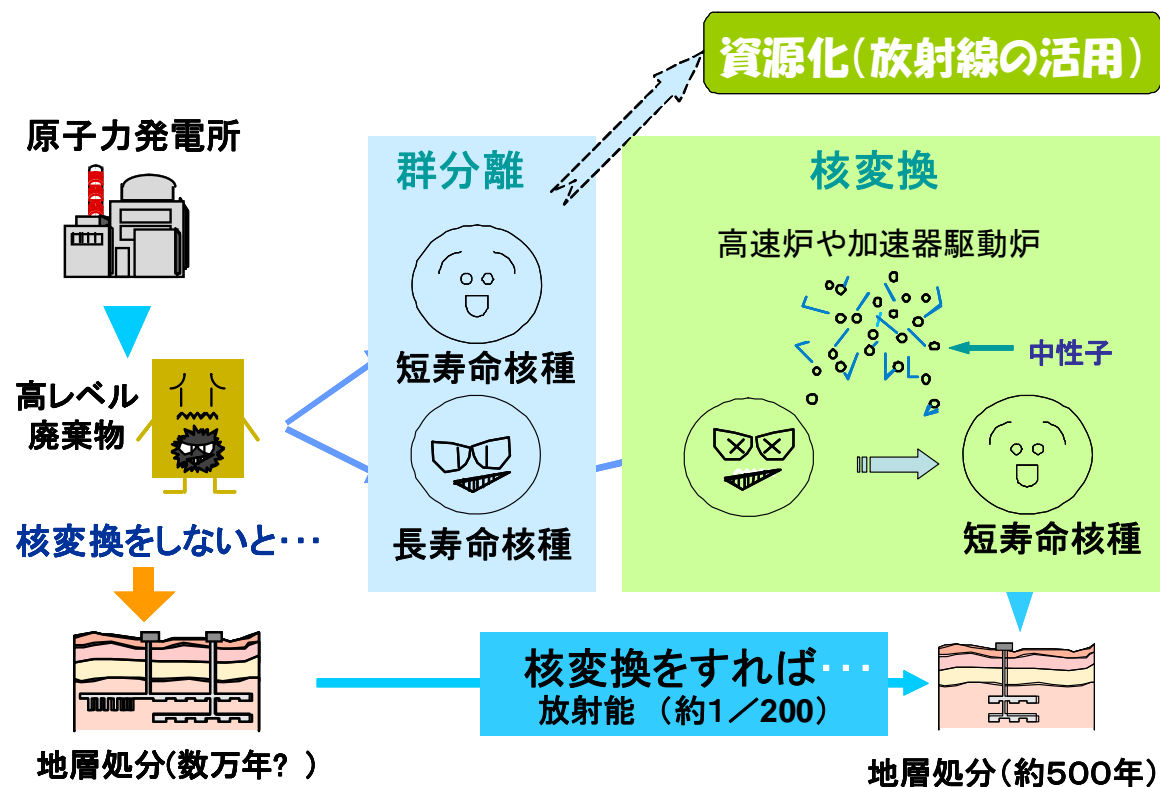
### ○有識者

	氏 名	現 職
	山根 義宏	名古屋大学大学院工学研究科 教授
	河田東海夫	原子力発電環境整備機構 理事
	長崎 晋也	東京大学大学院工学系研究科 教授
	深澤 哲生	日立GEニュークリア・エナジー株式会社日立事業所主管技師
	矢野 安重	理化学研究所 仁科加速器研究センター センター長
	若林 利男	東北大学大学院工学研究科技術社会システム専攻 教授

※その他、必要に応じて有識者を招へいする。

(参考)

## 分離変換技術について



「長寿命核種の分離変換技術に関する研究開発の現状と今後の進め方」(平成 12 年 3 月 31 日 原子力委員会バックエンド対策専門部会)より抜粋

## 第5章 今後の研究開発の進め方

(中略)

### (5) 研究開発のスケジュールと評価

前述のように、本技術は核燃料サイクルと不可分であることから、核燃料サイクルの研究開発と整合性のあるタイムスケジュールを念頭に置きつつ、本技術の研究開発に取り組むことが適当である。

現在、高速増殖炉及びこれに関連する核燃料サイクルについて、調査研究が実施されている。この調査研究では、2005 年頃を目途に、実用化の候補として有用な技術についての研究を集約して評価し、実用化までの研究開発シナリオをレビューする計画である。このため、2005 年頃が分離変換技術について、発電用高速炉利用型・階層型をはじめとする研究開発シナリオ全体の再検討を実施する機会と考える。その後も、研究開発の進捗、成果及び進め方について概ね5年を目途にチェック・アンド・レビューを行い、分離変換技術のシステム概念の評価や導入シナリオの見直しを進めるべきである。